

第7回ライオンズ杯

神戸FC 2部門 多井畑が制覇

第7回神戸兵庫ライオンズ杯争奪少年大会は9月1日から23日まで、御崎少年グラウンドを中心に行われた。神戸兵庫ライオンズクラブが寄贈する大きなカップは、1部(6年生以下)、2部(4年生以下)でそれぞれ神戸FCボーイズが、3部(女子)では多井畑が手にした。今回は1部63チーム、2部42チーム、3部19チームが参加し熱戦がくり広げられた。1部の神戸FC・Aは1年ぶり5回目、2部の神戸FC・Dは4年ぶり3回目の優勝、3部の多井畑、Aは初優勝を飾った。

なお、1、2部優勝チームと、準優勝チームは11月3日、4日に竜野市で行われる第18回兵庫県少年大会へ市代表として出場した。1部(男子5、6年) 決勝(9月23日)

神戸FC・A 2 (0-1) 延長 1東舞子・A

決勝は千歳Aを準決勝でPK戦で下し、2年ぶりの優勝を狙う神戸FC・Aと、同じくPK戦で多井畑を準決勝で破り、二連覇を目指す垂水SS東舞子Aとの対戦となった。

前半は東舞子が豊富な動きとスピードで圧倒し、ほとんど神戸FC陣内でゲームが進んだ。前半13分、東舞子がゴール前のせり合いから先制点を上げ意気上がった。

しかし、後半に入ると東舞子の動きに疲れが見えだした。神戸FCは反撃に転じ攻撃のリズムをつかみだした。後半14分、ついに神戸FCが同点に追いつき、試合は延長戦に絡れ込んだ。延長に入っても神戸FCの攻撃は衰えず前半1分、右サイドに流れた乾がセンターリング、中で待つ堀元に合わせて見事な逆転ゴールが決まった。

1部は準決勝の2試合がPK戦に絡れ込むなどベスト4に残ったチームはほとんど力が接近していた。守備に関しては4チームとも失点が少なく千歳は失点0で敗退した。3位決定戦を除く)多井畑、千歳、神戸FCは1対1の守備が強く安定していたが、逆に攻撃のまぶさが目立った。東舞子の攻撃はスピードがあり突破力はあったがスタミナ面で課題が残った。点取屋と呼ばれるストライカーがいなかったこと、中盤での組立てからシュートにつながるものが少なかったことなど原因であろう。

2部(男子4年以下) 決勝(9月23日) 神戸FC・D 1 (0-0) 0多井畑 E

決勝でのこのカードは過去4回の対戦で、多井畑が3勝1敗と勝ち越している。神戸FCは、ドリブル突破を中心によくシユートまで持ち込めず決め手を欠いた。一方多井畑は速攻で神戸FCゴールを脅かした。後半16分神戸FC角堂のシュートがバーに当たってはね返ったところを酒井が決めて決勝点となった。雨にもかかわらず両者元気よく、おもしろいゲームを見せてくれた。

3部(女子) 決勝多井畑A 1(0-0)0ひよどり台A 最近力をつけてきた多井畑・Aが念願の初

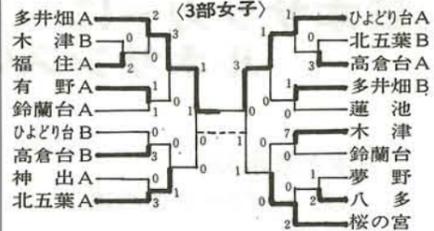
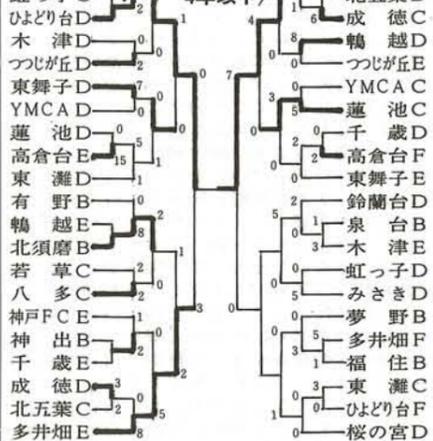
優勝を飾った。多井畑は得点7、失点0の素晴らしい成績で、決勝戦でもねばるひよどり台を振り切ってライオンズ杯を手にした。

年々女子サッカーのレベルも向上し、決勝となれば白熱した好ゲームを見せてくれる。チーム数も増え、ますます盛んになることと期待している。

千歳A 2 (1部男子5、6年) 13 多井畑A



みさきC 1 (2部男子4年以下) 6 神戸FC D



審判研修会を開催

神戸市協会主催、藤田利明(市協会審判委員長)岡田和法両講師による、1985年度競技規則改正等についての研修会が10月26日神戸市立勤労会館で行われた。

第2条 ボールの空気圧に関して現行1気圧(1平方センチメートル当たり1000グラム)を、600グラムから1100グラムとする。

第10条、第14条 ゴールエリア内で試合が停止されたとき、主審はボールのあった地点にもっとも近いゴールラインに平行なゴールエリアのライン上でボールをドロップする。(現行はボールのあった地点でドロップ。)

第12条、5、ゴールキーパーとして競技中、現行ルールではGKがボールを保持したあと、すぐ近くにいる味方競技者にボールを渡してすぐリターンしてもらい、それを足でプレーしたあと手でつかむというプレーが行われているが、今回の改正でこうしたプレーは禁止され、GKはいったんボールを手で保持したら許された歩数と動作の中で、ボールをプレーのために離れたあとは、味方競技者がペナルティエリアの外でプレーしたあとでない、そのボールを手でプレーすることは、出来ないことになった。

選手の服装について。1. 試合中にユニホームをパンツの上に出している選手には主審が注意し、二度目には警告をする。なお改まらない場合は退場を命ずることもある。

2. 試合中にストッキングを降ろしている選手についても同様の処置がとられる。

(ある試合の反省から) Aチームの9番が、ドリブルで突破した。Bチームの4番がボールとは関係なく、9番の足をめがけてタックルした。Rは笛を吹きその場にかき寄って、4番に対してカードを使って警告を与えた。Rから警告を受けた4番を9番が「何するねん」と、両手で押したので両者ともみあい始めた。Rは中に割って入り、9番に警告を与え、4番に退場を命じた。両チームのメンバーがRに対し「お互いのことやから、別に退場やら警告やらすることないやんか」と、言うのでRは、9番に対する警告と4番に対する退場を取り消した。

(反省) 笛の吹き方、注意のしかた、間合をとることで選手の気持を静め事態の悪化を防ぐことが必要だが、退場を命じる場合も警告の場合と同様であるが、他の選手の抗議に対しても毅然として臨まなければならない。はっきり抗議を拒絶し、退場を確認する。

神戸市社会人運営会議予定 次回 6月19日(木)

7月17日、8月21日、9月18日、10月16日 11月20日、12月18日、1月22日、2月19日 3月12日、3月19日。いずれも18時30分から王子登山研修所。社会人リーグに参加している各チームの代表者が必ず一人出席して下さい。

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。〒650 神戸市中央区八幡通2-1-10 三木記念神戸市立スポーツ会館内 神戸市サッカー協会 ☎078-232-0753

有宏スポーツ、塩谷スポーツ、MEN'S SHOP MAC、ヤノ運動用品. 各店舗の住所と電話番号を掲載.

スメラ、加茂トアロード店. 各店舗の住所と電話番号を掲載.

神戸のサッカー



ユハイム

開校から20年、卒業生は3,000人を超える おめでとう神戸少年サッカースクール創立20周年

神戸少年サッカースクールが創立20周年を迎え、10月10日、神戸総合運動公園で記念祭が盛大に行われた。記念祭には、スクールの生徒、父兄、神戸FCの会員、スクールの過去在籍者まで多数が参加し、一日ともにボールをけて、スクールはたちの誕生日を祝った。また、砂田重民県協会会長も記念式典に列席され、関係者の長年の努力に対し、感謝と慰労の言葉をのべられた。

兵庫県は戦前、サッカー王国といわれ、全国高校選手権大会では神戸一中、御影師範など、兵庫県の代表校が全国大会では必ず優勝すると言われた時代があった。しかし、戦後は、広島、静岡、埼玉勢が強く、兵庫のサッカーは振なかった。

そこで、これを再建するには、少年を育てる以外にない、昭和40年4月、当時のサッカー関係者が一致協力して同校をスタートさせた。運営に当たったのは、その2年前に発足した『兵庫サッカー友の会』であったが、全国でもめざらぬ、同スクールを成功させようと、関係者の努力はなみだいでではなかった。昭和45年12年、スクール生徒数の増員にとともに、ボランティアでは運営できないくなり、友の会を法人化した『社団法人神戸フットボールクラブ』を設立し、専従職員をおいて運営を引きつぎ、今日に至っている。

今、すごいブームの少年サッカーも、20年前はほとんどなく、わずかに、林幸男氏が、六甲少年蹴球団を作ってボールをけていた。その後、スクールの指導をしていた林氏、畠山喬氏、中川次男氏ら数人が独立してチームを結成、市内のスポーツ少年団リーグがスタート、後に神戸市少年リーグへと発展した。この和は、兵庫県下にも広がり、兵庫少年サッカー大会も行われるようになった。

サッカー界のプロ化にとともに、次第に選手育成は、学校体育から社会体育クラブへ移行されるであろうが、20年前にこれを予測し、他に先行して少年スクールをスタートさせた関係者の先見の明と、その努力の偉大さにあらためて感心し、これからも少年サッカーの底辺として増々発展してほしいと願わずにはおられない。

おめでとう神戸少年サッカースクール



つ人氣が盛りあがっていたとはいえ、大衆の理解が十分でない時代に小・中学生の選手を組織的に育てる試みは、画期的なこととして大きな注目を浴びました。そのあと、雨後の竹の子のように誕生した日本各地のサッカースクールにも確かな指針を与え、今日ますます充実の度合いを深めている少年サッカーに非常に大きな功績を尽くしたものと自負しています。そうした社会スポーツによる少年育成に対して、文部大臣賞や兵庫県スポーツ賞をはじめ数々の栄誉をいただいたことは望外の喜びであります。子供たちがグラウンドで力いっぱい走り、楽しくボールをける姿は、何にもまして美しいものです。60年度の生徒は629人にのぼり、20年における卒業生は3,000人を超え、明日に向かって大きく飛びたくとうとしています。この20年の間に歩んできた道を振り返るにあたり、神戸少年サッカースクールの事業をご支援いただいた方々に対して、心からお礼申し上げる次第です。神戸フットボールクラブは今後も微力ながら、サッカーを通じて社会スポーツに普及、発展に貢献する所存です。ので、温かいご理解とご協力をお願い申し上げます。

神戸少年サッカースクール 二十年の歩み より転載

辰美中(淡路) 決勝で神戸FCを降す 第19回兵庫県中学生選手権大会

第19回兵庫県中学生選手権大会は、各地区予選を勝ち抜いた32チームが参加して、10月20日から県下7会場で開催した。

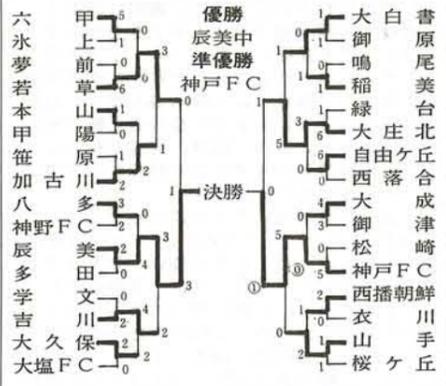
11月10日、神戸中央球技場で行われた決勝戦に進出したのは、3年連続4度目の優勝をねらう神戸FCと、淡路代表の辰美中学で、前半5分、辰美のカウンター攻撃が功を奏し、これが決勝点となって、見事辰美が優勝を飾った。

今年、決勝に残った2チームのほか、尼崎の代表となった若草、大庄北、大成の活躍が光った。これらのチームは少年団からの連携がうまく行われており、柔らかいボールコ



ントロールをベースに基本的な戦術が指導されており、将来に希望をいだかせるチームであった。このほか守備面で1対1のねばり強さ、マークのポジショニング、予測、判断の基準の指導が不足されていると思われた。

第19回兵庫県中学生選手権大会結果



県高校選手権 御影高校が県代表に

高校選手権兵庫県大会

県大会は各地区予選を勝ち抜いた24チームが出場し、11月2日から11月10日まで、神戸中央球技場ほかで行われた。その結果御影高校が3-0で御影工高を下し、全国大会出場を決めた。

(1次リーグ結果)

- ▷Aグループ ① 御影工2勝 ② 尼崎北1勝1敗 ③ 志知2敗
- ▷Bグループ ① 三木東2勝 ② 伊丹北1勝1敗 ③ 六甲2敗
- ▷Cグループ ① 明石北2勝 ② 伊丹西1勝1敗 ③ 育英2敗
- ▷Dグループ ① 北須磨2勝 ② 姫路西1勝1敗 ③ 篠山産2敗
- ▷Eグループ ① 御影2勝 ② 福崎1勝1敗 ③ 明石西2敗
- ▷Fグループ ① 神戸弘陵1勝1分 ② 赤塚山1勝1分 ③ 節磨2敗
- ▷Gグループ ① 三原2勝 ② 県伊丹1勝1敗 ③ 市尼崎2敗
- ▷Hグループ ① 滝川第二2勝 ② 龍野1勝1敗 ③ 豊岡2敗

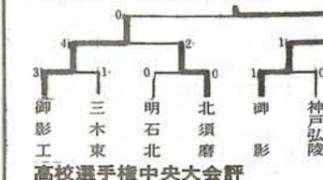
決勝トーナメントは11月6日から磯上球技場・中央球技場で全国選手権出場を目指して戦われた。

▷決勝(11月10日 神戸中央)

御影 3 (2-0) 0 御影工

【評】決勝戦は13時に開始され、20分御影のCF栗井健詞が御影工業のパスを奪ってシュートして先取点をあげたのに続き、ゴール前でこぼれだまも押し込んで2点をリード。さらに後半も金相換の左からのセンタリングを栗井が、ヘディングで、ゴール左上へ決めた。一方、御影工は後半に攻撃をかけ、再三にわたり、御影のゴールを襲ったが、GKの好守にはばまれ、57年と同じく御影に敗れた。

(決勝トーナメント記録)



高校選手権中央大会評

本年度より試合形式を第一次リーグ、決勝トーナメントという形に改め、各支部代表24校によって実施された。予想通り第一次リーグより激戦が展開され、早くも総体第三位の福崎や優勝候補にも挙げられた伊丹北が姿を消した。結局、神戸の3チームと淡路1チームが、ベスト4に進出し、全国大会出場権をかけて激突し、攻守のバランスがとれた御影が二度目の優勝を成し遂げた。

この大会では三木東や神戸弘陵が一次リーグを勝ち抜き善戦をしたものの、やはり戦前から予想されていたように、御影、御影工、北須磨、三原が他に喰い入るすきを与えず、安定した力を発揮し、楽にベスト4入りをした。ダークホースと目された明石北や滝川第二もさすがに強く、よく勝ち進んだが、心配されていたようにメンタルな弱点を覆いきれずに敗退した。神戸、淡路、東播の勢いに反して、阪神のレベルダウンも特記すべき事ではないかと思われる。

ところで最近強いチームには必ずといっていいほどスーパースターがいる。エースを中心によくまとまったチームが強い。今大会でも御影の勝因はエース金、山中、文箭を中心によくまとまっていた事が第一にあげられよう。御影工の内山、小西、寺内の存在や北須磨の松井、橋本らも同等に評価出来る。スーパー級の選手育成が我々コーチの課題

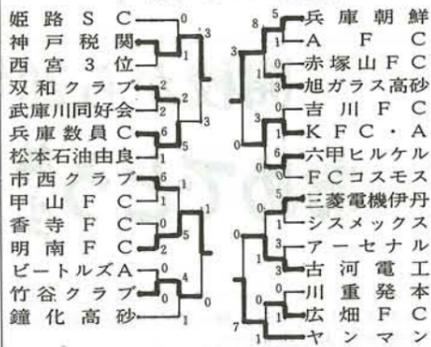


高砂県協会長から優勝旗を受け取る御影高校大橋主将

御影高校対御影工業の決勝戦から

兵庫県社会人都市リーグ 決勝大会

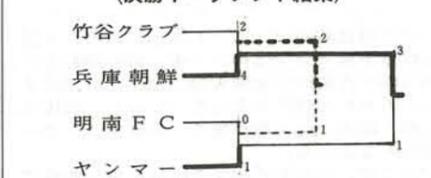
60年度県下社会人都市リーグ決勝大会は、10月13日新日鉄夢前グラウンドで開幕、10月20日、27日、11月3日、10日、17日、24日、12月1日、8日の9日間、日触姫路、弘陵高校、神戸総合サブグラウンドで行われた。兵庫朝鮮が優勝、2位ヤンマー、3位に竹谷クラブが入り、明南クラブは4位と善戦した。



(敗者復活戦)

- 神戸税関 1-4 竹谷クラブ
- 明南FC 2-0 兵庫教員C
- 兵庫朝鮮 7-5 古河電工
- ヤンマー 5-0 KFC・A

(決勝トーナメント結果)



第40回国体近畿地区予選少年の部

- ▷リーグ 兵庫1-0大阪 兵庫2-0京都
- ▷決勝 兵庫3(2-0)0奈良
- わかつり国体 秋季大会記録 於鳥取
- ▷少年1回戦(10月21日) 兵庫2(1-0)1千葉
- ▷少年2回戦(10月22日) 兵庫2(1-0)0佐賀
- ▷少年準々決勝 兵庫0(0-1)1長崎

である。そして個々の選手には基本技の練習をおろそかにせず、基礎体力強化をなおざりにせず、負けじ魂を鍛えて、もっと強いサッカーが出来るよう頑張してほしいと思う。本当は勝てたはずのゲームをこのような力の欠如で、とりこぼしたチームもあったように思うが61年度の総体に向けて一層の努力を望む。

60年度高校選手権神戸市予選 赤塚山、育英、六甲、御影、神戸弘陵、御影工、滝川第二、北須磨が代表に

県大会を前に市の予選が9月8日から10月5日まで、市内高校で行われた。市予選には31チームが参加し、8組に分けて1次リーグを行い各組上位2チームが決勝トーナメントに進出し、県大会に出場する代表の座を決めた。その結果、赤塚山、育英、六甲、御影、神戸弘陵と御影工、滝川第二、北須磨が県大会に出場した。

- (1次リーグ) [A組] 1位八代3勝 2位村野1勝1分 3位夢野台1勝1分 4位友が丘3勝 [3組] 1位神戸3勝 2位須磨東2勝 3位神戸西1勝 4位東灘3敗 [C組] 1位御影3勝 2位灘2勝 3位兵庫工1分 2敗 4位滝川1分 2敗 [D組] 1位須磨2勝 2位兵庫1勝 3位鈴蘭台1勝 4位長田1分 2敗 [E組] 1位神戸弘陵3勝 2位伊川谷1勝 1分 3位神戸高塚1勝 1分 4位神港学園3敗 [F組] 1位育英3勝 2位市神工2勝 1敗 3位舞子1勝 2敗 4位市神港3敗 [G組] 1位赤塚山2勝 2位六甲1勝 3位兵庫商2敗 [H組] 1位神戸甲北3勝 2位鈴蘭台西2勝 1敗 3位葺合

充実のモルテン Tango
サッカー界の新しいスタンダード。プロからアマまで。Molten Tango。Official FIFA World Cup design. Made in Japan.

株式会社 モルテン
広島/東京/大阪/名古屋/福岡/札幌

日本サッカーにルネサンスは起こるか？(24)

枚方FC 近江 達

日本と欧米の チームワークの相違

パターン練習ばかりやらされていると、それ以外の状況に対応できなくなってしまふ。やらされているチームは弱い。そういう状況になると先生やリーダーの顔を見て指示を仰いだりするから、どう仕様もない。ラグビーの名手 松尾雄治

いまは世界中どこへ行ってもみんな組織的なサッカーだが、かつて欧米には個人技全盛の古き良き時代があった。とくに南米など、華麗な個人プレーで大いに観衆を湧かせたものだが、そうした個人技中心のサッカーはもうほぼ完全に姿を消してしまつた。ブラジル、ハンガリーなど、数々の名手が生まれた国々でさえ「昔は天才的個人技で戦ったけれども、今はチームプレーに徹しないと勝つことができなくなった」と言うのだ。楽しさという点では魅力半減で、なかでも南米の変わりようには淋しさを覚える。

もっとも、こうした本場のサッカーの移り変わりも、有史以来組織サッカー本槍で通してきたわが国のサッカー界から見れば、「今までの彼らがあまりにも個人主義的でありすぎたのであって、これでやっと教科書どおりの正しいサッカーになったのだ」と日本式サッカーの正当性に自信を深めている人々の方が多いかも知れない。たしかにサッカーはチームスポーツだから、プレーは有形無形を問わずすべてチームプレーでなくてはならない。これはいうまでもないことである。しかし一口にチームプレーといっても、実際のゲームは組織プレーと個人プレーとのさまざまな組み合わせと連続なので、実態は民族性や歴史、伝統などによって千差万別であり、また時代によっても違う。なかでもわが国の大多数の人々が「チームプレーのサッカーとはかくあるべし」と脳裏に描いているイメージや、伝統的に踏襲してきた実際の日本のチームプレーと欧米のそれとは、本質的にちがうものである。だいたい、選手に対する監督の注文がすでにちがっている。

日本式チームワークの自縛性

もっとも日本だってレベルの高い個性的選手が欲しいことに変わりはない。でもこの望みはかなえられそうもない。日本式チームワークの世界は、とてもそういう選手が育ち得る環境とは思えないからである。何しろプレーの種類、配合やリズムなどがほぼ決まっていて、それこれと選手が話したように、幼い頃からずっと言われたとおりにプレーし、もし天分に恵まれた選手がいても、あくまでも皆と同じようにその枠内で能力を発揮しなくてはならない。しかもこの枠がずいぶん狭くて管理がきびしいため、枠外とか枠以上をゆく独創や個性は無用であり、下手すると統制秩序を乱す者とみなされ、レギュラーからはずされてしまう。これではハイレベルどころか、当然伸びるべきものも伸びない。だいたい外国なら育ち盛りに何年かサッカーをやれば、たとえ教えられなくても自然に身につけてしまふようなものさへ身につけることができな

い。わが国では選手自身の判断工夫で臨機応変に対処し打開していくというやり方は正道ではない。そんな状態に陥ること自体失敗だともみるのが普通で、チームワークを乱す勝手なプレーとしてタブー扱いはチームさへ珍しくないくらいだから、相手次第でどうこうと言われたって無理な注文というものである。ただし例外はある。充分ではないにせよ、ある程度創造力や技術のある選手たちが、幸か不幸か作戦命令を守らず自由に自分たちのアイデアでプレーしたときである。リードされて挽回不能になったので、もう指示どおりではなくてもよいと判断して始めた時、作戦どおりやっていた時よりも、そうした試合を

事実、元日本代表で現在西独プロで活躍している奥寺選手は、初め日本でやってきたように、言われたとおりにプレーしていると、「もっと自分で考えたプレーをやれ」とよく注意されたそうである。この体験談は両者の重要な相違点を如実に示している。日本式チームプレーは、チームごとに伝統的パターンが決まっていて、それを毎年のレギュラーが受けついでそのとおりにプレーするといったものが多い。だが欧米のはそういうレディメイドのパターンではない。むしろ方針も傾向も指令もあるけれども、日本のような強制ではなく、実際には、ゲーム中に選手たちがそれぞれの状況判断や創意工夫によって作りだす。それが彼らのチームプレーなのである。したがって個人の力のアップがチーム力のアップになる。そこで必然的に、一人ひとりの能力をどんどん伸ばし才能を開花させ、できるだけ高いレベルの自決できる選手にしていく教育が必要となるわけである。

トータルサッカーとかチームプレーの強調とかいっても、重点が個人による打開から組織プレーの方に移っただけで、「個性豊かなハイレベルの選手でないと駄目だ」という欧米の伝統的選手観や需要自体は、以前とたいして変わっていないのである。

個人育成を罪悪視する教育界

1967年、少年サッカー育成を始めたとき、私は「ストリートサッカー的な自由度の高い練習法を多用して、少年たちを、誰とでも組める個性豊かな高いレベルの選手に育てよう。そうすれば将来大人になったとき、欧米人のように各自のアイデアを噛み合わせて精緻な高度なサッカーを展開できるにちがいない」と考えた。むしろわが国では異端な思想だから賛同者はほとんどない。コーチの会合でも私が、「少年サッカー教育はチーム育成中心でなく、個人育成を中心に行っている」と話すと、即座にどこかの先生が立って、「私は教育者だから、チームを育てる。サッカーはチームスポーツだから、個人中心は間違いだ」と反対される。学校教育ではサッカーの授業でチームワークを教えることになっているので、チーム優先、一致団結、協調性を強調するのはならない。個人の肯定などとてもないことなのだそうである。そうでなくても、わが国にはただでさえ個人・イコール・エゴイズムと白眼視する社会通念があるから、子供たちは、体育の時間のサッカーで誰かがドリブルしたり、ボールをもって相手を抜こうとしたりすると、「一人で作るな！」などと叫ぶ。そのかわり、ボールもたないで、蹴とばしておきさえすれば、たとえ敵にボールを献上したって、絶対文句を言われることはない。

この連載は、雑誌サッカー・ジャーナルに連載されている枚方FCの指導者、近江達氏の随想をサッカー・ジャーナルのご好意で転載しております。「日本サッカーの発展のためにはルネサンスにも匹敵する人間性の解放が必要である」と、近江氏はいうが……。



△トヨタカップで個性豊かなプレーを見せるMr.ブラディニ

投げてしまつてからのほうが、創造性があったのだから、何とも奇妙な話である。似たようなことはワールドユース東京大会であった。あのときも日本ユースは堅守から逆襲速攻という伝統的作戦でのぞんだが、全く通じなかったので相当非難の声が上がった。そのためかどうか、やり方を変えて、選手たちのアイデアに任せ一少なくともそのように見えたところ、大分見られるようになったのである。第二次大戦敗北から40年、失敗の経験を生かさないで同じ失敗を繰り返す国民性はちつとも変わっていないようである。

モンブランの “スピードサッカー”
メインテーマ
基本のプレーを徹底的に追求し、機能性を第一に考えたサッカーシューズ

markam & Libe/lo
親しまれるサッカーウェア younger

リベロメイン06
標準小売価格¥9,800

MONBLANC リアル・スポーツの追求
モンブラン株式会社
神戸・東京・福岡